

実践報告

札幌市立常盤小学校

(1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究

- 4年生の社会科の学習と関連させ、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の展示資料等の見学及び同センターの小中学生団体体験プログラムを活用した体験学習を行うことにより、アイヌ文化や歴史により具体物に触れながら学習し、その理解と人権意識の深化を図る。

(2) 実践の内容

【実践】社会 「昔から今へと続くまちづくり」

中単元1 アイヌの人たちの生活と文化について

○ ねらい

- ・ アイヌ文化交流センターの展示物や施設を見学し、アイヌ文化と歴史についての一層の理解を図る。
- ・ アイヌ民族の方から歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識の深化を図る。

○ 学習内容

<第1次>

◇教科書や資料集で情報を得ながら、アイヌの人の生活や文化についての知識を得る。

1) 社会科「アイヌの人たちの生活と文化」(3時間)

- ・ アイヌの人々の生活…衣・食・住、遊びと自然、文化、芸術
- ・ アイヌの人々と和人の出会い

2) 社会科「アイヌの人々の歴史と人権」(～江戸時代/明治～昭和時代)(2時間)

<第2次>

◇アイヌ文化交流センター訪問におけるプログラムの内容を理解し、何について調べるか等の見通しをもつ。

1) センターを訪問し、見学や体験学習を行う。(3時間)

①講話

②楽器の生演奏・舞踊鑑賞と体験

③アイヌの子どもの遊び体験

④施設見学(館内展示室、チセ・丸木舟等屋外展示物の見学)

⑤子どもからの質疑



<第3次>

◇各自発表テーマをもち、アイヌ文化交流センターや映像資料等で得た情報を活用し、まとめたものを発表する。

1) 調べ学習のまとめ(2時間)

学校の授業においてワークシートを作成し学習の振り返りを行うとともに、アイヌ文化交流センターを訪問して得られたアイヌの人たちのくらしや文化、人権についての知識等をまとめた。

2) NHKに協力してもらい夷酋列像にまつわる物語の映像資料を觀賞する。(2時間)

- ・ 「夷酋列像」にまつわる映像資料を觀賞し当時のアイヌの人たちと和人の関係についてより理解を深める。
- ・ 当時のアイヌの人たちと和人の関係から人権意識を深める。

3) 授業参観の場を利用し、調べたことを発表する。(1時間)

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 講師のお話や、楽器の生演奏、舞踊の鑑賞・体験、子ども遊び等のプログラムは、子どもにとって興味深い体験であった。直接体験として触れるアイヌ文化に興味をもち意欲的に活動することができた。また、当時の和人ととの関係を知ることで、和人のアイヌに対する扱いなどから人権についての意識をもつことができた。
- ・ 屋外展示物や室内展示室の見学では、実際の生活で使用する道具や衣類に触れることができ、子どもの興味・関心を一層高めることができた。
- ・ 普段、教科書の文章でしか学習していない子どもたちにとって、これらの具体的な体験活動は理解を深めるうえでも非常に有効だと感じた。また、アイヌ語の意味に関する話、展示物の見学等を通じ、アイヌ民族の自然観などアイヌ文化の奥深さと自然とともに生きる姿にふれ、アイヌ文化への一層の敬意をもつことができた。
- ・ 調べたことを他者に発表する場面を設定することで、いろいろな事柄を分かりやすく説明するため、より深く理解しようと活動する姿が見られた。

② 課題

- ・ 体験プログラムで学んだ事柄を子どもそれぞれの新たな学びの視点として見ていけるように、1時間程度を見学時間として確保したが、同センターの展示室や自然の森、歴史の森を自由に巡る時間の確保が大切であると感じた。訪問する側(学校)が余裕ある時程を組む必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 「人権」を意識させるには、学習内容に工夫が必要である。「和人」と「アイヌの人」の関わりの中で、お互いの立場を考えさせる場面を設定してはどうか。人権が脅かされている側、脅かす側の両方の立場で考えることで「人権」に対する意識が育つのではないか。敵対するのではなくお互いを尊重する心を育てたいと思う。